



復元された『西宮大神本紀』の「和田岬御旅所（三つ石）神事」の図
 （記事は九月の項に掲載）



発行所
 三石神社社務所
 神戸市兵庫区
 和田宮通3丁目2-51
 TEL (078)671-2531
 FAX (078)671-7667
 E-mail info@mitsuishi.or.jp
 URL http://mitsuishi.or.jp

○ ご家庭・会社事務所に神棚を祀りましょう。
 ○ お伊勢さんのお神札（神宮大麻）と三石さんのお神札を合せ奉齋しましょう。
 ○ お神札は、毎年末もしくは新年に新しく改めてお祀りしましょう。

神社と新型コロナウイルス感染

三石神社 宮司 小林 友博

師走の候、氏子崇敬者の皆様におかれましては、ご健勝にてご活躍のこととご同慶に存じます。又、年頭の正月より一年間各種神事行事に対しましてご崇敬ご奉獻を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、令和元年十二月頃より中国武漢市より発生したとされる新型コロナウイルス感染症が、猛威を振り瞬く間に世界的規模で蔓延拡大した。令和二年一月には日本でも初めて感染者が確認され、二月には初の死亡者も出た。世界での感染者が二十万人を超え、国内の感染者も千人を超えた三月、県内や神戸市内での初の感染者が確認され、東京で開催のオリンピックも一年延期が発表された。四月には兵庫県を含めた七都府県に「緊急事態宣言」が発出され、不要不急の外出・イベントの自粛、クラスター対策による感染拡大防止などが要請され、小中学校も臨時休校となったが、マスクを付けた国民一人一人の感染防止努力により感染減少も見られ、五月二十一日には兵庫

県の「緊急事態宣言」が解除され、GOTOキャンペーンも始まった。後、第二波感染もおこってはいるが、神戸市の感染者は日を追って減少している。が、いつ再び流行するかは予断を許さない状況である。

新型コロナウイルス感染は、古代に編纂された「六国史」等にも記されている疫病はつやまひの一種である。その事例として『日本書紀』崇神天皇五(五七〇)年の条には、「国内に疫病多く、民の死亡するもの、半分以上に及んだ」と見られ、後、大物主神を祀ったところ疫病が収まったと記され、また『延喜式』祝詞の「道饗祭みちあへのまつり」は疫病神が入り込まないよう祈る災禍予防目的の祭で、「遷却崇神祭たごかみをうつしやうかちり」は災禍の元となる悪い神々の心を和め、遠方に追放することを目的とする祭である。このように日本人は古代より疫病に対し鎮め退けるために、神に祈りを捧げて今日に至っている。当社でも三月五日の朝拝時、また四月一日の月次祭に合わせ「新型コロナウイルス感染症流行鎮静祈願祭」を宮司・禰宜で齋行し一日も早い終息を祈願した。

四月七日に発出された「緊急事態宣言」により、神戸市内の各神社から春祭中止知らせも届き、当社でも祈祷、また出張祭典予約などのキャンセル・延期などの連絡が入るなどの状況となった。十二日、臨時総代会を開催し、既に諸準備を進行中であった本年の例大祭齋行につき協議したところ、十九日の氏子会総会も含め二十二日

（二十四日齋行の例大祭を中止決定した。そこで五月二十二日には、宮司・禰宜のみで、神饌・本庁幣帛をはじめ氏子崇敬者初穂料を供え、例祭祝詞の奏上、玉串奉奠をして例祭を厳粛に齋行した。

二十五日、全国の「緊急事態宣言」が解除され、神戸市内の感染者も減少しており、七月十七・十八日の両日、相殿に祀る素盞鳴大神すさのねのおおみかみの夏越祭(茅の輪くぐり神事)を齋行した。まだ新型コロナウイルス感染終息に至らない時期ではあったが、夏越祭は疫病退散・無病息災祈願の祭であり、一人でも多くの氏子崇敬者の方々が新型コロナウイルスの感染も無く、無病息災で過ごしていただきたいと願い齋行した次第である。但し新聞折込ピラ、殿内神前奉納琉球舞踊などを中止するなど規模を縮小した。

現在のところ新型コロナウイルスの感染経路、治療法などは解明されていないが、世界中で急ピッチにワクチン開発が進められており、いずれは終息するであろうが、十一月一日現在での国内感染者一〇二、〇六二名、神戸市内は一、二二八名であり、まだ予断を許さない状況が続いている。氏子崇敬者の皆様方もご自愛の上、感染防止に努められ、今後とも健勝にて過ごされますよう心よりご祈念いたします。

(令和二年十月 記)

令和元年十一月

七五三詣祈禱齋行

十一月中、七五三詣祈禱を齋行した。貸衣装予約の関係か、令和元年早々と九月に参拝されるご家族もあつた。

当社では七五三に当たる子供さんの玉串奉奠や、拝殿内での記念写真撮影も行い、千歳飴やおモチャ・風船・おみやげセット等の他にキャラクターバック等の記念品もお渡しして大変喜ばれました。

土・日・祝日に限らず期間中には会館二階に特設写真スタジオを設け、



特設スタジオでの記念写真



記念写真を撮っていただけるよう設備しています。

また、お宮参りにもご連絡頂ければスタジオを設備いたしております。但し、七五三詣・お宮参りの写真スタジオご希望の方は、必ず予約をお願いください。

令和二年一月

柔道選手・阿部兄妹
今年も必勝祈願参拝、テレビ報道



大絵馬の前で勝運御守を持つ阿倍兄妹との参拝記念写真

初詣で賑わう二日、御祭神・神功皇后の勝運神徳の御守護を賜り、本年開催される東京オリンピックの柔道女子五十二キロ級金メダル候補として注目される阿部詩選手、兄で六十六キロ級の一二三（共に日体大）選手が今年も必勝祈願参拝した。



阿部兄妹の色紙と祈願絵馬

八月の世界柔道選手権で三位だったため、今回の優勝で代表争いに並び、四月の最終選考会となる全日本選抜体重別選手権で優勝すれば代表となる。

オリンピックの年でもあり、当日はNHK

多くの報道陣インタビュー



神戸新聞、スポーツ新聞記事など

をはじめ多くの報道陣も詰め掛け、境内のいたるところで二人の新春インタビューと当社の勝運御守・祈願絵馬などを持った写真撮影などが約一時間半にわたり執り行われた。

しかし、中国から発生し、日本でも一月末

色紙に「金」（詩選手）、「勝」（一二三選手）と今年の抱負を揮毫し、祈願絵馬には「優勝」（詩選手）、「勝負に勝つ」（一二三選手）と願って絵馬賭けに吊るした。

本年二月開催のGS・デュッセルドルフ大会で阿倍兄弟共に優勝し、その後詩選手はオリンピック代表に内定したが、兄の一二三選手は昨年

で十四例の新型コロナウイルス感染者が確認され、日を追うごとに国内に蔓延したため、四月の全日本選抜体重別選手権も中止となり、オリンピックも一年延期となった。

阿倍兄妹の一年後に向けたモチベーションの持続、ピーキング調整を怠らず、兄妹共々に代表選手となり東京オリンピックで優勝（金メダ

ル)する事を願ってやまない。

年頭氏子崇敬者繁栄祈願齋行

正月三日、「氏子崇敬者繁栄祈願祭」が総代・氏子崇敬者三十名の参列のもと厳かに斎行され、今年一年の参列者各位はもとより、氏子崇敬者更に各事業所の安寧と繁栄を祈願した。

今年の神前奉納は、大阪寝屋川市裏千家茶道家・四方宗代先生による立礼によるお薄お手前である。



ご神前でのお点前

立礼は畳に座るのは違って椅子に座る形式なので参列者も拝見しやすいものとなった。お茶碗・お菓・建水などの道具も所作も基本的に坐礼とほとんど変わらないが、お茶を

点てる時のお茶碗の押さえ方が坐礼とは違っている。

先生の点てられたお抹茶はご神前に供えられ、ご祭神も初めてのお抹茶を満喫されたことであろう。



鳥居前での記念写真

式典後、参列者一同破魔矢を持ち、鳥居前にて記念写真を撮り、直会ではお弟子さん達が準備された伝統的新年のお菓子(花びら餅、白味噌餡とごぼうが使われた独特な菓子で、室町時代の宮中で用いられたのが始まり)とお抹茶が宮司所蔵の様々な茶碗で振舞われ、一同新春初釜のお手前にご満悦で、和やかな雰囲気であった。

令和二年二月

潜水艦内神棚入魂修祓式齋行



命名・進水式 平成30年10月4日
乗組員より寄贈された進水式写真

三菱神戸造船所で建造中の潜水艦「おうりゅう」の三月五日の引き渡しに先立つ、二月十三日、神棚(三石神社神札奉安)入魂修祓式を齋行した。

当日は艦内ということで齋場が狭いため、艦長予定者・機関長予定者をはじめ十数人の参列であったが、祝詞奏上後の航海安全と乗組員の健康を祈願した玉串拝礼では、代表者の艦長予定者に合せ一同が一つ音で拝礼する状に、乗組員たちの厳正な規律心と力強さが表われていた。「おうりゅう」は世界で初めて

チウムイオン電池を搭載したことにより、従来の潜水艦よりも水中に潜って航行できる時間を延ばした。三月の引き渡し後、操縦訓練しながら



報道された新聞記事

ら広島県の呉基地を目指すそうである。翌十四日、潜水艦「おうりゅう」の艦内神棚奉安入魂修祓式の取材のため、『帝国海軍と艦内神社』などの著者である久野潤氏が当社を来訪した。尚、「おうりゅう」引き渡しのこととは、三月六日の「神戸新聞」朝刊などで報道された。

禰宜、神職身分二級に昇級

二月十五日、当社禰宜が十日付の神社本庁辞令により、神職身分二級に昇級した。

神職身分は特級、一級、二級上、二級、三級、四級の六等級があり、本庁の身分選考委員会の選考を経たものが昇級する。

神職には身分制度の他に階位制度もあり、それによる祭祀服装に規定があつて、二級神職は正装（正服）のうち、冠・袍・袴などが替り、冠は遠紋（無紋）から繁紋（紋入）に、袍は緑無地（青色）から蘇芳色（緋色）に、また袴の色は浅黄（水色）から紫袴を着装することが許される。



二級以上の冠と装束

尚、当社では例大祭奉仕のときに正装を着装している。

令和二年三月

兵庫消防団第六分団消防自動車入魂修祓式齋行



入魂修祓式後の記念写真

十五日午前九時、兵庫区御崎町二丁目の兵庫消防団第六分団詰所に於いて、消防自動車（軽四）の入魂修祓式が齋行された。

兵庫消防団第六分団は吉田中学校区を管轄し、防災のため日々訓練を行い地域の安全を守っている。当社禰宜も入団しており、今回の入魂修祓式の奉仕となった。

第六分団の消防自動車の導入は

今回が初めてであり、詰所の駐車スペースの関係もあつて軽自動車の消防自動車である。当日は道林分団長を始め分団員が参列、軽四消防自動車を戒い清め、交通安全を祈願した。

令和二年四月

新型コロナウイルス感染症流行鎮静祈願祭齋行と例大祭中止決定

一日午前八時半の月次祭に合わせ、新型コロナウイルス感染症流行鎮静祈願祭を宮司・禰宜で齋行した。

中国から発生した新型コロナウイルス感染症は、世界規模で猛威を振るい、その感染も早々と日本に達し、各地に於いて行事の中止や延期並びに規模縮小などの対応がなされはじめた。

そこで一日も早く事態が鎮静化するよう、神社本庁からの「新型コロナウイルス感染症流行鎮静祈願祭」執行通達により齋行した。

神前にて「此頃は如何なる禍事の荒び猛びにや悪き流行の疫病の入り来りて国内の諸多に患ふが故に医師等を初め官人等の力を盡して疫病の禍事を除き拂い遣らんと日は終日夜は終夜心盡して励めども未だ甲斐し

在らねば」、「五月蠅如す消き漂へる疫病の禍事昆虫の飛行く随に拂ひ遣り給ひ一日も速く清く平穩に成さしめ給へ」との祝詞を奏上し、一日も早い終息を祈願した。

七日に発出された「緊急事態宣言」により、十二日、臨時総代会を開催し、本年の例大祭齋行につき協議したところ、新型コロナウイルス感染症流行のため、已む無く十九日の氏子会総会も含め例大祭を中止決定した。

十六日、政府は新型コロナウイルス感染症防止のため、「緊急事態宣言」を全都道府県（全国）に拡大した。

令和二年五月

例祭齋行

四日、政府は全国の「緊急事態宣言」を五月三十一日まで延長するとしていたが、新型コロナウイルス感染拡大も終息の方向に向かいつつあつて、十四日には三十九県が解除されたが、特定警戒県として兵庫県はそのまま継続となった。

このような諸般の状況のなか、二十二日～二十四日齋行の例大祭は

中止となったが、二十二日午前十時半、宮司・禰宜のみで、神饌・本庁幣帛をはじめ氏子崇敬者初穂料を供え、例祭祝詞の奏上、玉串奉奠をして厳肅に斎行した。

過日、新型コロナウイルス感染拡大の外出・イベント自粛要請のため、已む無く本年の例大祭を中止し、神職のみで例祭を斎行する旨を氏子崇敬者にお知らせさせていただいた。氏子崇敬者より数十件の初穂料、奉献酒等のお供えを賜りましたこと、紙上をかりて改め御礼申し上げます。

二十五日、全国の「緊急事態宣言」が解除され、神戸市内の感染者も減少していますが、まだ予断を許さない状況が続いております。皆様方もご自愛の上感染防止に努められ、今後のご健勝ご多幸をお祈り申し上げます。

令和二年八月

神功皇后御陵正辰祭参列

当社ご祭神である神功皇后の正辰祭（『日本書紀』による神功皇后の崩御日は撰政六十九年四月十七日と記されているが、旧暦（陰暦）記載

で、太陽暦（新暦）月日は六月三日となる）には、氏子崇敬者と共に奈良県奈良市山陵町にある神功皇后御陵（狭城盾列池上陵）に参拝し、後各地に旅行をしていたが、約十五年前より宮内庁陵墓官の祭典が平日斎行となり、平日での参加者も減少して来たので、平成二十二年より、例大祭の終了した六月の日曜日を選び、氏子崇敬者の親睦旅行としたので、以後御陵正辰祭には毎年宮司もしくは禰宜が参列している。

本年は宮司夫妻で参拝したが、新型コロナウイルス感染の事もあって、毎年多人数で参拝している大阪・住吉大社も宮司外一名の参拝で、神酒拝戴も省略した祭典であった。



奈良市の神功皇后御陵

令和二年七月

夏越祭（夏祭り）斎行

十七・十八日の両日、相殿に祀る素盞鳴命の夏越祭（茅の輪くぐり神事）を斎行した。

新型コロナウイルス感染終息に至らない時期ではあったが、神戸市内の感染者の減少と、夏越祭は疫病退散・無病息災祈願の祭であるので、一人でも多くの氏子崇敬者の方々が、新型コロナウイルスの感染も無く、無病息災で過ごしていただきたく斎行した。但し新聞折込ピラ、殿内神前奉納琉球舞踊などを中止するなど規模を縮小した。

十七日午後六時からの殿内祭典には、総代・氏子崇敬者十二名参列のもと、宮司が大祓詞・祝詞奏上の後、参列者代表各位が玉串奉奠した。

更に、境内に設けた「大茅の輪くぐり」神事では、宮司・禰宜に続き参列者一同が『拾遺和歌集』に収められている古歌「水無月のなごしの祓する人は千歳の命のぶといふなり」をはじめ、「思ふこと皆つきねとて麻の葉をきりにきりても祓ひつ

るかな」・「蘇民将来、蘇民将来」と唱えつつ左・右・左と三度くぐり、人が知らず知らずのうちに犯した罪や過ち、心身の穢れを祓い清め、夏の無病息災を祈願した後、会館二階にて三菱電機神戸製作所小谷総務課長の挨拶・乾杯発声で直会を執り行い、参列者は神職手作り無病息災のご利益ある「蘇民将来茅の輪守」を授与されお開きとした。



茅の輪くぐり神事

尚、茅の輪の起源は、『備後国風土記』逸文に、ある時蘇民将来と巨旦将来の兄弟が素盞鳴尊（武塔神とも）が宿を求めた際、裕福な弟の巨旦は断つたが、兄の蘇民は貧しいながらも快く泊めて厚くもてなしたので、尊は蘇民の一家に茅の輪を渡し、「もし疫病（現在の新型コロナ

ウイルス感染またインフルエンザなど)が流行したら、その茅の輪を腰につけなさい」と言って去りました。数年後疫病が流行した際、蘇民は尊の教えの通り茅の輪をつけたので疫病から逃れることができ、家は栄え子孫繁栄した。

この故事に基づき茅の輪神事が執り行われるのです。

令和二年九月

西宮神社海上渡御産宮参り

二十二日、商売繁盛の神で知られる西宮市の西宮えびす神社(西宮神社)の二十一回目の海上渡御「産宮参り」で例年通り当社を参拝した。

昨年実施予定であった大規模な二十回記念渡御が台風により中止となったため、改め本年執行う予定であったが、これまた新型コロナウイルス感染症のため已む無く中止となり、規模を縮小し七名の参拝であった。

そもそも二十年前から斎行された西宮神社の和田岬への船渡御は、平安時代から行われていたが、織田信長の社領没収で途絶えていたものを



復元された「西宮大神本紀」の報道記事

約四〇〇年ぶりに復活させたものである。

当日午後三時半、当社宮司・総代が参道で奉迎する中、西宮神社吉井権宮司他が昇殿し、修祓・西宮神社の掛鯛(向かい合わせの二匹の鯛)献饌の後、西宮神社権宮司の祝詞奏上・玉串拝礼、続いて当社総代が玉串拝礼参拝した。

参拝を終えた後、本殿前で一同記念写真を撮り、会館で休息の後、次なる柳原蛭子神社参拝に向かった。

当社では全ての奉迎・送迎行事が終了後、会館にて直会を執り行い総代一同を慰労した。

尚、表紙に掲載している『西宮

大神本紀』(絵と詞書からなっており、江戸時代中期頃(一六八一〜一七八〇)の作とされる絵巻物であるが、昭和二十年の空襲で焼失)の写真は、この度西宮神社が戦前の絵葉書・調査書等に残されていたものから、約一年九カ月をかけてカラー復元したもので、そのうちの「和田岬御旅所神事」図の絵である。

絵は、兵庫和田崎の御旅所に御駐輦の処を描き、御輿三輿をそれぞれ奉安した三つの石が描かれている。即ち廣田・西宮・南宮三社の神輿である。この石を三つ石と称した。

ところで、当社への産宮参りの由来は、江戸時代中期の宝暦五(二七五五)年の『西宮神主家日記』に、御旅所の場所は「祓殿と申候由」と記され、祓殿は三石神社である。『西宮大神本紀』の「和田岬御旅所神事」の図にも三つ石が描かれているところから当社であることが知られる。

但し、江戸時代中期に作成されたこの絵詞から約一七〇年前には海上渡御が途絶えているので、当然当時の絵師が実際に和田岬の神事を見ることは出来ず、聞き描きで描いたも

ので、服装などの時代考証も江戸時代中期であることを判断していただきたい。

社殿屋根葺き替え事業・銅板

御寄進者ご芳名

(含) 申込・分納・追加、

令和元年十一月から

令和二年十月末日まで

順不同・敬称略

銅板奉納者全ての方々のご芳名は、神社台帳に記録の上永く保存させていただきますが、境内掲示板のご芳名掲示は三枚以上とさせていただきます。

ご寄進誠にありがとうございます。厚く御礼申し上げます。



境内の奉賛芳名掲示板

趣意とお願い

現社殿は昭和三十八年に竣工して、約五十年となります。

銅板の寿命は約五、六十年といわれています。そこで将来銅板屋根の葺き替えを行なわなければなりません。

そのような事情により、皆々様に銅板寄進(一枚二千円)をお願いいたしております。

社殿銅板屋根にあなた様のお名前を残し、更なる三石大神のご加護により、貴社・貴家の益々の弥栄をご祈念申し上げます。案内申し上げます。

既にご奉納いただきました方々には重ねてのご案内となりましたことをご了承下さい。

当社で命名に関係されたお子様のお健やかなご成長をご祈念申し上げます。

新生児命名

令和元年十一月から
令和二年十月末日まで

シリーズ

社務所・境内紹介

社殿に向かい合って奉納スクリーンプロペラが置かれている。平成五年の「平成の御修造記念事業」の際、兵庫区吉田町にあった㈱K造船所社員一同から奉納されたものである。

当社は古来神功皇后の事績の事もあつて、「往来神」とも称され、海上安全守護神でもあつた。そのようなご利益から、高速艇などを建造していた造船所が高速艇のスクリーンを奉納したもので、台座に会社名・社員一同の氏名が刻まれた奉納者プレートもついている。尚、奉納後二十数年経て、スクリーンがくすんでいたが、昨年末に磨かれ今は金色に輝いている。

令和二年一月九日の「神戸新聞」朝刊の「古都回遊」に、このスクリーンが「輝く金色のスクリーン」と題され写真と共に報道された。

記事内容の一部には、「神功皇后が、三つの石を建てたことに由来する三石神社境内の一角には、金色に

輝く「スクリーン」が置かれている、また「明石海峡大橋の開通などが影響し、船の利用者は激減。高速艇は姿を消した。観光や故郷に帰る市民の足を支えた高速艇に携わった先人たちの記憶を、スクリーンは伝えている」と記されている、当社も和田岬の一つの歴史証として大切に永く保存したい。



新聞報道記事

に取り付けられていたものだろう。同社は、船名の運行を守る」とされる。「往来神」が祭られており、高速艇の製造者の社員が、商赤繁盛と海上の安全などを祈願するため、約30年前に奉納したという。しかし、明石海峡大橋の開通などが影響し、船の利用者は激減、高速艇は姿を消した。観光や故郷に帰る市民の足を支えた高速艇に携わった先人たちの記憶

シリーズ

書籍に見る三石さん



『お札になった! 偉人のひみつ』

②王族・研究者・指導者編

二〇二四年に二十年ぶりに日本のお札のデザインが刷新され、渋沢栄一・津田梅子・北里柴三郎の三人が新しいお札の顔として登場するが、本書は学校図書刊行を行って(株)教育画劇が「お札になった! 偉人のひみつ」のシリーズもの二巻のうちの一巻として、令和二年四月に発行された、48頁写真入りオールカラー印刷の、小学高学年学習向けの本・児童書であるが、大人も読んでいて楽しい本である(定価本体三、五〇〇円十税)。

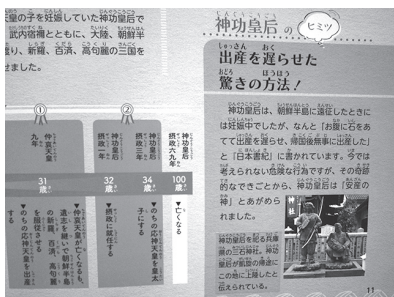
表紙には過去・現在の肖像画入り紙幣とイラストの日本武尊・ネフエ

ルティティ・ガンジーが描かれているように、内容は日本だけでなく世界の国々でお札になった人達の、それぞれの人生や功績を紹介しているので、偉人伝としても楽しく読むことができる。またコラムやトリビア（雑学的な事柄や知識）も満載され、知識本として子供たちのお札に関する学習に役立つ本である。

二巻の本書は、王族・研究者・指導者編で、二〇二四年に千円札の顔となる北里柴三郎をはじめ、野口英世やマリイ・キュリーといった研究者や科学者、マハトマ・ガンジーやヨハネ・パウロ二世といった宗教家マルコ・ポーロやコロンブスといった冒険家、聖徳太子・日本武尊・神功皇后といった日本の皇族、エリザベス二世やニコライ一世またチンギス・ハンといった海外の王族を紹介している。また第一章には、「日本初のお札ってどんなものだったの?」「日本で初めてお札の肖像になった人はだれ」「お札の歴史と日本のできごと」など、知識学習を深めるのに役立つ情報や知識も満載されている。

ところで、当社に関する記事は、

第二章の日本の皇族蘭の、「神からお告げを受けて、朝鮮半島を降伏させた神功皇后」の条のエピソード「神功皇后のヒミツ・出産を遅らせた驚きの方法!」で、「神功皇后は、朝鮮半島を遠征した時には妊娠中でしたが、なんと『お腹に石をあてて出産を遅らせ、帰国後無事に出産した』と『日本書紀』に書かれています。今では考えられない危険な行為ですが、その奇跡的なできごとから、神功皇后は『安産の神』とあがめられました。神功皇后を祀る兵庫県の三石神社。神功皇后が凱旋の帰途にこの地に上陸したと伝えられている」と当社の神功皇后銅像写真と共に紹介されている。



掲載記事

本書は全国の小学校図書室に蔵書されるようで、当社のことや全国の小学生、また先生方に知られることは何よりの神社教化広報であり、取材協力・写真提供の労が報われるものである。

令和三年の神社神事・行事予定

- 一月 一日 歳旦祭（初詣）
- 一月 三日 氏子崇敬者繁栄祈願祭
神前奉納津軽三味線
- 五月二十一日 例大祭
- 二十二日 地区子供みこし巡幸
- 二十三日 神幸式（おわたり）
- 六月二十日 氏子崇敬者親睦旅行
- 七月十七日 夏越祭
- （琉球舞踊奉納・茅の輪くぐり）
- 十八日（茅の輪くぐり）
- 九月二十三日 西宮神社産宮参り
- 十月十七日 秋祭（天照皇大神祭）
- 各月 一日 月次祭
- 十一月 中 七五三詣

三石神社諸祈祷のご案内

【殿内個人祈祷】

（殿内における各種祈祷）
家内安全、病氣平癒、安産、初

宮詣、七五三詣、学業成就、厄除、交通安全、その他

【会社・事業所安全繁栄祈祷】

（会社・事業所団体祈祷は事前ご予約願います）

【出張祭典】

（諸準備の為、事前ご予約願います）
起工・地鎮祭、上棟式、竣工式
入居清祓式、神棚祭、各種安全祈願祭、その他（含 神葬祭）

服忌について

家庭にご不幸があった場合、一般的には五十日間を忌中として故人を偲び、神棚に半紙を貼るなどしておまつりを遠慮します。

忌が明ければ神棚もおまつりし、通常の生活に戻ります。忌の期間が正月をまたぐ場合は、忌が明けてから神社の参拝、また、お神札みくさを受けても差し支えありません。

なお、親戚の方が亡くなられた場合は、お葬式を出したお家でなければ、葬儀告別式後通常のおまつりをして問題ありません。詳略は当社にお尋ね下さい。

令和三年年頭授与絵画



美鳳画

印刷所
(有)前川企画印刷
神戸市兵庫区永沢町三丁目三十一
TEL (〇七八) 五七七―二四八八
FAX (〇七八) 五七七―七三二〇